介護福祉士養成課程における障害児介護教育
－発達障害の子どもの介護を目指した福祉教育プログラム－

西日本短期大学　一山 幸子（006399）

キーワード：発達障害、介護福祉士教育、障害児者への興味関心

１．研 究 目 的

厚生労働省による平成 21 年度改正された介護福祉士養成カリキュラムは、認知症高齢者介護が中心であり、障害児・者介護のための時間数は非常に少ない。介護実習施設も高齢者施設が圧倒的に多い。本学の障害児者介護実践教育に関わる講義・演習では、平成 27 年度から知的障害者の介護過程（個別支援計画）の授業を開始したところである。さらに、知的障害者施設の施設長や相談支援専門員、発達障害を専門とする精神科医など現場から講師招聘し、教育内容の充実化を図っている。一方、学外での体験実習では、自閉症療育キャンプの参加や福岡市教育委員会主催の学生サポーター制度による地域の特別支援学校等での障害児支援活動､障害児者施設でのボランティア活動･アルバイトを実施している。平成 25 年度より、放課後等デイサービスの学生アルバイト派遣を開始し、夏休み期間中の障害児の支援を行っている。以上のように、正規の介護実習のみならずボランティア等によって障害児者への専門的生活支援技術及び療育支援技術の向上を目指している。

本研究では、学生に対するアンケート調査「障害児、障害者、高齢者の各分野に対する興味関心について」の結果を分析し、本学における障害児者介護福祉教育プログラムの内容について検討する。

２．研究の視点および方法

介護福祉学生に対して、①障害児への興味・関心、②障害者への興味・関心、③高齢者への興味・関心について５段階評価でアンケートを実施した。また、興味・関心を持ったのは①いつ頃から、②きっかけ、③その理由について自由記述とした。アンケート調査実施時に、アンケートの回答内容は授業の評価に加えないことを学生に説明した。アンケート調査の対象者は、介護福祉士養成課程の学生 23 名であり、社会人学生や職業訓練生を含む。１年次は平成 26 年 10 月、２年次は 平成 27 年 11 月にアンケートを行った。これらの時期は、１年生にとっては夏季ボランティア活動を終えて後期授業が開始したところであり介護実習は経験していない。一方、２年生にとっては、介護実習の全４回分を終了しており２年間のボランティア経験が各学生それぞれにある。

３．倫理的配慮

対象者及び関係者に対して本研究の目的を説明し研究の同意・協力を得た。また、学会

発表として公表するに当たり、対象者個人が特定できないように匿名化した。

４．研 究 結 果

表１に本学での障害児介護に関わる実践教育プログラムを示す。アンケート調査より、高齢者に対する興味・関心は、幼い頃から祖父母との関わりが多少ともあり、短大入学当初から約 74%の興味・関心があった。一方、障害児者については「関わったことがないから」という理由で関心が持てない学生もいた。興味・関心を持った理由は、介護実習やボランティア、授業受講を通して「一人一人の利用者に合った支援を考えたい」「もっと知りたいと思った」等の意見があった。障害者施設での実習やアルバイト研修を通じて「障害者への偏見があった」、「知的障害者の行動の意味が分かった」、「子どもと一緒に遊んで楽しかった」、「障害者施設に就職したいと思った」という感想があった。

表１．障害児介護に関わる実践教育プログラム

	ボランティア・アルバイト等		講義・演習	
	・自閉症療育キャンプ		・障害児施設介護論	
	・特別支援学校 学生サポーター		・介護の基本Ⅱ	
	・放課後等デイサービス		・介護の基本Ⅳ（障害者の介護過程）	
	・障害福祉サービス事業所		・障害者福祉論	
	・介護実習		・生活支援技術（障害形態別）	

５．考 察

アンケート調査より、高齢者に対しては幼い頃から祖父母との関わりによって高い興味関心が見られた。一方、障害児者については「関わったことがないから」という理由で関心が持てない学生もいたことから、早期から障害児者と接する機会や知る機会を持つことの重要性が感じられた。ただ、１年次において障害児に興味・関心が「非常にある」「ある」と答えた学生は全体の６割、障害者では５割未満であったものが、２年次になると７割へと大きく増えたことから、学生の興味・関心をより深めるためにも障害児・者の介護実習先やボランティア、療育参加の機会を提供することが有効であると考えられた。

興味・関心を持った理由は、介護実習やボランティア、授業受講を通して「一人一人の利用者に合った支援を考えたい」「もっと知りたいと思った」等好奇心、向学心が非常に強く感じられた。障害児者と触れ合う体験を得たことによって、彼らのことを分かりたい学びたいという意欲が湧いてくる。勉強できる機会が増えることによって興味や探究心が芽生えると考えられる。「介護福祉士の仕事は高齢者介護だけだと思っていた」「高校の先生から介護福祉士は障害児施設には就職できないと言われた」という高校生の声も聞かれることから高校等への情報発信の重要性もうかがえた。介護福祉士は知的障害、発達障害児者支援を担う専門職であることの周知を図りたい。各種ボランティアや授業等、各々における動機付けや学習成果の調査・分析をすることが今後の課題である。